



平成23年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年12月22日

上場取引所 東大

上場会社名 株式会社 オークワ
コード番号 8217 URL <http://www.okuwa.net>

代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役財務本部長
四半期報告書提出予定日 平成22年12月28日

(氏名) 福西 拓也
(氏名) 今井 啓

TEL 073-425-2481

配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年2月期第3四半期の連結業績(平成22年2月21日～平成22年11月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年2月期第3四半期	213,592	△0.8	3,751	11.4	3,943	13.5	1,654	44.0
22年2月期第3四半期	215,290	—	3,365	—	3,473	—	1,149	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年2月期第3四半期	37.01	—
22年2月期第3四半期	25.72	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年2月期第3四半期	139,512	76,679	55.0	1,714.96
22年2月期	135,149	76,213	56.4	1,704.49

(参考) 自己資本 23年2月期第3四半期 76,679百万円 22年2月期 76,213百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年2月期	—	13.00	—	13.00	26.00
23年2月期	—	13.00	—	—	—
23年2月期 (予想)	—	—	—	13.00	26.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年2月期の連結業績予想(平成22年2月21日～平成23年2月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	290,400	0.3	6,200	6.1	6,350	6.4	2,800	18.7	62.62

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】3ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年2月期3Q 45,237,297株 22年2月期 45,237,297株

② 期末自己株式数 23年2月期3Q 525,485株 22年2月期 524,293株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年2月期3Q 44,712,855株 22年2月期3Q 44,693,561株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
【第3四半期連結累計期間】	
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策などにより一部で持ち直しの動きがあったものの、雇用、所得環境は低迷し個人消費が低調に推移するなど、依然として厳しい状況が続きました。

小売業界におきましては、猛暑効果で盛夏商品の販売が好調であったものの、依然として業態を越えた企業間競争の激化による客数減、及び消費者の生活防衛意識の高まりによる客単価の下落が続き、非常に厳しい経営環境となりました。

このような状況のなか、当社は『意識改革なくして業務改革なし、業態に合わせた「価格戦略」「品揃え方針」を明確にし、業界屈指の競争力を身につけよう』を本年度スローガンに掲げ、業務を進めてまいりました。業務改革については、本年1月の組織変更により『業務改革室』を設置し、全社ベースで業務の見直しを行っております。

㈱オークワは、3月にスーパーセンター業態の「桜井店」(奈良県桜井市)、4月にSSM業態の「加古川野口店」(兵庫県加古川市)、9月にSSM業態の「美濃加茂店」(岐阜県美濃加茂市)、11月にSSM業態の「海南野上店」(和歌山県海南市)、スーパーセンター業態の「美濃インター店」(岐阜県美濃市)の5店舗を新設いたしました。

当第3四半期連結累計期間の業態別の販売状況は、豊富な品揃えと低価格を実現した「スーパーセンター」業態とこだわりの商品を取り揃えた高質スーパーの「メッサ」業態は消費者ニーズにマッチし比較的順調に推移しましたが、主力の「レギュラー」業態とディスカウントタイプの「プライスカット」業態は、外部環境の悪化により、販売が低迷いたしました。既存店売上高の前年同期比は第1～第3四半期累計で97.0%となりましたが、直近の第3四半期は100.0%と回復傾向にあります。

連結子会社については、高質スーパーを主力とする㈱パレ、食品スーパーの㈱ヒラマツ、外食の㈱オークフーズの3社合計で増益を確保いたしました。特に㈱ヒラマツは当社の支援が奏功し、支援後初めて経常損益ベースで黒字に転換いたしました。

連結ベースの販売費及び一般管理費は、賃借料などの削減が進み、合計で前年同四半期比753百万円減となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの営業収益(売上高及び営業収入)は、2,135億92百万円(前年同四半期比0.8%減)、営業利益は37億51百万円(前年同四半期比11.4%増)、経常利益は39億43百万円(前年同四半期比13.5%増)となり、四半期純利益は16億54百万円(前年同四半期比44.0%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

①資産の部

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ43億63百万円増加し、1,395億12百万円となりました。

増減の内訳としては、流動資産では48億62百万円の増加であり、これは主に現金及び預金が29億1百万円、商品及び製品が12億37百万円増加したことによるものであります。

固定資産では4億98百万円の減少であり、これは主にのれんが5億41百万円減少したことによるものであります。

②負債の部

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ38億96百万円増加し、628億33百万円となりました。

増減の内訳としては、流動負債では59億94百万円の増加であり、これは主に支払手形及び買掛金が20億69百万円、1年内返済予定の長期借入金が増加したことによるものであります。

固定負債では20億97百万円の減少であり、これは主に長期借入金が21億85百万円減少したことによるものであります。

③純資産の部

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ4億66百万円増加し、766億79百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年2月期の業績予想につきましては、当第3四半期の業績を踏まえ検討した結果、現時点においては平成22年4月5日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(簡便な会計処理)

①棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

②固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

税金費用の計算

当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

表示方法の変更

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間において、特別損失の「その他」に含めて表示しておりました「固定資産除却損」及び「賃貸借契約解約損」は、それぞれ特別損失総額の100分の20を超えたため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記しております。なお、前第3四半期連結累計期間の特別損失の「その他」に含まれる「固定資産除却損」は98百万円、「賃貸借契約解約損」は81百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年11月20日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,404	11,503
受取手形及び売掛金	1,940	1,465
商品及び製品	11,164	9,926
その他	2,971	2,721
貸倒引当金	△6	△3
流動資産合計	30,474	25,612
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	44,952	44,857
土地	37,205	37,091
その他(純額)	5,153	5,079
有形固定資産合計	87,311	87,028
無形固定資産		
のれん	1,909	2,451
その他	4,632	4,563
無形固定資産合計	6,541	7,014
投資その他の資産		
その他	15,638	15,946
貸倒引当金	△454	△453
投資その他の資産合計	15,184	15,492
固定資産合計	109,037	109,536
資産合計	139,512	135,149
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,708	14,639
短期借入金	15,578	16,428
1年内返済予定の長期借入金	3,521	1,463
その他	15,702	12,984
流動負債合計	51,510	45,515
固定負債		
長期借入金	3,384	5,570
退職給付引当金	115	118
その他	7,822	7,731
固定負債合計	11,322	13,420
負債合計	62,833	58,936

(単位:百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年11月20日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,117	14,117
資本剰余金	15,024	15,026
利益剰余金	48,394	47,902
自己株式	△713	△714
株主資本合計	76,823	76,331
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△127	△96
繰延ヘッジ損益	△16	△22
評価・換算差額等合計	△143	△118
純資産合計	76,679	76,213
負債純資産合計	139,512	135,149

(2) 四半期連結損益計算書
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至平成21年11月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年2月21日 至平成22年11月20日)
売上高	207,660	206,187
売上原価	156,174	154,845
売上総利益	51,486	51,341
営業収入		
不動産賃貸収入	3,604	3,375
その他の営業収入	4,025	4,030
営業収入合計	7,629	7,405
営業総利益	59,115	58,747
販売費及び一般管理費	55,749	54,996
営業利益	3,365	3,751
営業外収益		
持分法による投資利益	62	58
受取手数料	258	260
その他	173	192
営業外収益合計	493	512
営業外費用		
支払利息	282	234
その他	102	85
営業外費用合計	385	320
経常利益	3,473	3,943
特別利益		
賃貸借契約解約益	568	32
補助金収入	295	—
その他	111	3
特別利益合計	976	35
特別損失		
固定資産除却損	—	145
減損損失	—	62
投資有価証券評価損	—	42
たな卸資産評価損	1,195	—
貸倒引当金繰入額	259	—
賃貸借契約解約損	—	151
その他	441	86
特別損失合計	1,895	487
税金等調整前四半期純利益	2,554	3,491
法人税等	1,429	1,837
少数株主損失(△)	△24	—
四半期純利益	1,149	1,654

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。